

国立科学博物館で「化学者展」開催中 「化学切手展」「化学遺産認定」紹介も

はじめに

世界化学年の今年、特に秋には、記念行事が集中しているので皆大忙しだ。中でも化学大好き人間必見の行事を紹介する。東京上野公園の国立科学博物館で、「化学者展」を現在開催中である。

11月からは関連展示として、「化学切手展」、日本化学会「化学遺産認定」の紹介もある。最終は12月11日なのでぜひ見逃さないでいただきたい。



図1 「化学者展」の様子

企画展「化学者展」

科学博物館の日本の科学者技術者展シリーズを楽しみにされている方も多いと思うが、その第9回の今回は、明治から昭和初期にかけて日本の近代化学の夜明けを担った4人の化学者、桜井錠二(1858-1939)、池田菊苗(1864-1936)、鈴木梅太郎(1874-1943)、真島利行

(1874-1962)を取り上げている(図1)。

幕末の江戸に近代化学の足音を知らせた宇田川榕菴訳の「舎密開宗」、金沢出身の俊英、桜井錠二が18歳でロンドン大学に留学した最初の年に化学の学年末試験で受賞した金メダルなど貴重な資料が大量に展示されている。まさに百聞は一見にしかずである。なお、日本化学会も資料集めなどに全面協力している。

関連展示「化学切手展」

11月1日から6日まで「化学者展」会場の前の日本館1階の中央ロビーで、「化学切手展」を開催する(本号会告参照)。化学切手同好会という極めてオタク的な切手収集家集団が、日頃集めた化学に関するすべての切手、初日カバー、初日スタンプなど、すべて本物を展示する。ついつい重箱の隅に走りがちな思いを抑えつつ、一般の方にも切手収集家にも納得してもらえるように工夫した展示会である。代表的な化学切手15選、副題(切手でたどる化学の世界・日本の



図2 化学式入り(赤円部)の切手



図3 「化学切手展」のポスター

化学)に沿った、化学の歴史、現代の化学と化学産業、環境問題と明るい未来、などのテーマと、世界で初めて化学式が切手に入ったアルコール専売制度10周年記念切手(日本、1948発行、図2)についての蘊蓄、世界で発行された世界化学年記念切手、金属箔切手を精密金属分析したら、などのトピックス紹介がある(図3)。

引き続き11月8日から最終日まで日本化学会「化学遺産認定」紹介として、これまで認定した10件をパネル展示する。ぜひ足を運んでいただきたい。

〔日本化学会理事・化学切手同好会会員
新井和孝(日産化学工業(株))

©2011 The Chemical Society of Japan